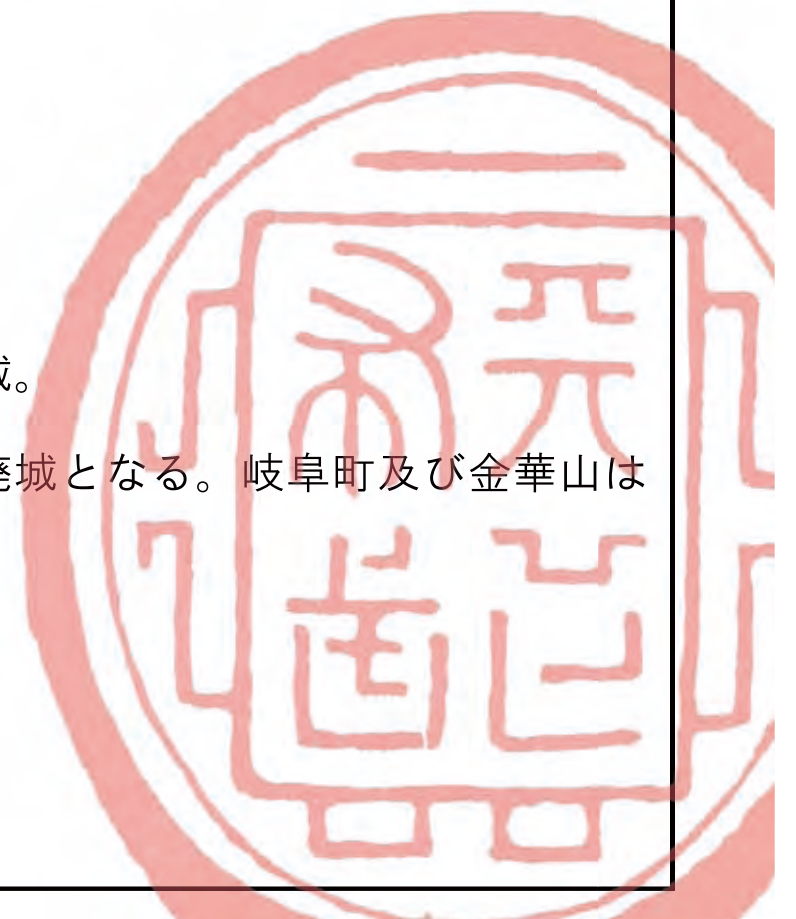


岐阜城関連年表

西暦	和暦	ことがら
		建仁年間（1201～1203年）頃、二階堂氏が稲葉山に城を築いたといわれている。
1525	大永5	長井藤左衛門尉長弘・新左衛門尉（斎藤道三の父？）、守護土岐氏、守護代斎藤氏を追放。
1535	天文4	長良川大洪水。道三と土岐次郎・朝倉氏・六角氏の間で合戦が始まる。このころ斎藤利政（道三）が稲葉山城に拠点をおく。
1543	天文12	大桑城で合戦。
1544	天文13	土岐次郎・朝倉氏・織田氏が斎藤道三を攻めるが、井口の合戦で敗退する。
1552	天文21	このころ斎藤道三が土岐頼芸を追放。
1553	天文22	斎藤道三、織田信長と富田・聖徳寺で会見する。
1554	天文23	斎藤道三、家督を利尚（義龍）に譲る。
1556	弘治2	斎藤義龍に攻められ、斎藤道三敗死（長良川の合戦）。
1561	永禄4	斎藤義龍病死。子の龍興が跡を継ぐ。
1564	永禄7	斎藤龍興、竹中半兵衛らに稲葉山城を占拠され、退城。
1567	永禄10	織田信長、稲葉山城を攻略し、本拠を小牧から井口へ移す。井口を岐阜と改名する。
1569	永禄12	ルイス・フロイス、岐阜来訪。
1576	天正4	織田信長、安土城へ移り、嫡男織田信忠が跡を継ぐ。
1582	天正10	本能寺の変（織田信長・信忠自刃）。織田信孝（信長三男）入城。
1583	天正11	池田元助入城。
1585	天正13	池田輝政入城。
1591	天正19	豊臣秀勝入城。
1592	文禄元	織田秀信（信長嫡孫、信忠の子）入城。
1600	慶長5	関ヶ原の合戦の前哨戦で落城。以後廃城となる。岐阜町及び金華山は尾張藩領として幕末に至る。
1910	明治43	復興天守建造
1943	昭和18	復興天守焼失
1956	昭和31	復興天守再建



ぎ ぶ じょう あと 国史跡 岐阜城跡

岐阜城は山麓の城主居館と山頂の天守を中心とした城で、山全体が天然の要害として機能していました。つまり、金華山＝岐阜城なのデス。

このたび、金華山一帯が国の史跡になることが決まりました。史跡とは日本の歴史の正しい理解のために欠くことができない遺跡のことだそうです。

信長公が足掛け 10 年過ごし天下統一の拠点とした岐阜城が、日本全体の歴史・文化を考える上で高く評価されたのデスネ。



© 岐阜市2006



史跡岐阜城跡の範囲

山上の城、山麓の居館

岐阜城は山頂の城郭部分と山麓の居館部分に分かれた構造をしており、登城路で結ばれていました。登城路は登山道として現在に受け継がれており、見通しの良いところには、どうやら砦があったようデス。

金華山は傾斜が急な山ですが、この自然地形自体が防御の役割を果たしていたのでしょう。そう考えると山全体が城であったといえますネ。



山頂の城郭部と山麓の居館の位置

ルイス・フロイス 岐阜来訪

私の名前はルイス・フロイス、ポルトガルから来たイエズス会の宣教師です。わたしはかつて織田信長公にキリシタンの支援をしていただくため、岐阜を訪れました。信長公の岐阜入城から2年後、永禄12年（1569年）6月のことです。

私は、そのとき訪れた城の様子を、手紙や著書『日本史』に書き残しています。



©岐阜市2006

ルイス・フロイス
[イメージ] (当時 37 才)

私たちは岐阜の市に至りましたが、人々の語るところによれば、八千ないし一万の人口を数えるとのことでした。

取引きや用務で往来する人々がおびただしく、バビロンの混雑を思わせるほどで、塩を積んだ多くの馬や及物その他の品物を抱えた商人たちが諸国から集まっていました。



岐阜市歴史博物館・楽市立体絵巻

フロイスが見た信長公の屋敷

清々しさ・美しさ・豪華さ・清潔さにおいて、私はこの宮殿に並ぶものを全く見たことがありません…

この宮殿は、2年前信長が武力をもって奪い取った、この美濃国の主城がある非常に高い山のふもとに建てられています。宮殿の外側には、石灰をまったく使わず、面積が広い上に見事に完成した石垣（**裁断されない石の壁**）があります。まもなく広場があり…入り口には、上演や公の祝祭に使う大きな**劇場ふうの部分**があります。広場の両側には木陰を作るための2本の大きな果樹がありました。**長い階段**を上ると、インドのゴアにあるサバヨよりも大きい部屋に入ります。

私が信長公に出会ったのは、彼が造った新しい宮殿を見に行く途中のことです。

「いつ着いたのか」とたずねられ、私の来訪を喜んでくれた様子でした。その後10人前後で宮殿に向かったのです。



岐阜市歴史博物館
・天下鳥瞰絵巻より

内部の部屋は大広間はクレタの迷宮であり、すべてが巧妙に思いのままに作られていました。…広間の最初の廊下には**15か20の座敷**へといたりますが、これらは屏風で飾られた部屋です。…廊下の外側には**5〜6の美しい庭**があります…。

2階には**大部屋と奥方の部屋**があり、その侍女の部屋がありますが、階下よりずっと優れています。

3階は山側へと、通路で同じ高さでつながっており、チャと称する粉末でできたものを飲む立派で美しい部屋、すなわち**茶の座敷**があります。…3階と4階の見晴らし台からは**町の全体が見えます**…

宮殿の中には、技巧を凝らして作られている部屋や廊下、前廊、厠（トイレ）が数多くあったと記憶しています。

普段は誰も入ることなく、柴田勝家殿も宮殿内を見るのは初めてだったとおっしゃっていました。



フロイスが見た山上の城

城の入り口にはある種の**堡壘**のようなものがあり、そこには**絶えず15 ないし20 人の若者**がいて、昼夜見張りに立ち、ある者が他へ**替われば**他の者がやってきた。城へさらに上ると、**入り口の次に2～3の座敷や部屋**があり、信長の領国における主立った諸侯の若い子息、年令**12 歳から15 歳の者約100 人**がいた。国主は彼らを物運びや警戒の番として使っていた。ここから中へ入る者はなく、彼の息子である王子が仕えるのであるが、彼らは二人で、**上が13 歳、下が11 歳**でワクサレン（若様か）と呼ばれた。

信長公に別れのあいさつをしたところ、城を見せたいから出発を2日間延期するようにといわれました。

こうして翌日、山に登ることになったのです。



岐阜市歴史博物館
・天下鳥瞰絵巻より



彼は、次男をやって茶をもってこさせ、私に初めの磁器（の碗）を与えて、自分は別のを飲み、そして三番目をロレンソに与えた。次に私に**美濃と尾張の国の大部分**を見せたが、城から見えるのは**すべて平野**であった。縁に向いた内側には、すべて**金の屏風**で豪華に飾られた座敷があり、周囲を**二千本もの矢**で取り囲まれていた。彼は、**インドに同様な城をもつ山があるかと私に問うた**。そして会話を2時間半から3時間にも延長し、（世界を構成する）元素、太陽、月、星について、各地の寒暖の性質について、またこの国の習慣について質問した…

信長公はワタシに、しばしば美濃に来るようにおっしゃいました。

そうして別れた後、柴田殿の案内で城の中を見学させていただいたのです。



信長公のおもてなし

信長公に面会するため、多くの人々が岐阜を訪れました。多くの方は玄関で話をしたそうですが、公家や文化人など特別なお客様は信長公自らがもてなしていたようです。もちろんワタクシもVIP待遇でした。

私の記録や訪れた皆さんの日記などをみると、山麓の屋敷を拠点に山上の城と長良川の鵜飼で接待を受けたことが分かります。この3箇所のもてなしの場は今の岐阜市の観光地と同じですネ。また、食事の際は自ら接待するのが信長流のもてなしだったようデス。



© 岐阜市2006

岐阜城のもてなしの場

山上の城

展望・食事
音楽・見学

長良川

鵜飼

山麓の屋敷

対面、食事、お茶、名物、
見学、能、踊り、歌、オヤツ...

訪問者

家臣の
もてなし

城下町

あきやま ほうぎのかみ
信長公のおもてなし 秋山伯耆守の場合

秋山伯耆守は信州伊那の飯田城代です。彼は、織田信忠と武田信玄の娘との婚約にあたり、武田信玄の使者として贈り物を持って岐阜にやってきました。

秋山伯耆守訪問日程

永禄十一（一五六八）年六月上旬	御祝儀の御進物↓七五三の御振舞	一日目	七度の盃が出て、七度ながら 伯耆守にすすめた	三日目	梅若太夫能を仕り ↓岐阜の川にて、鵜匠をあつ め、鵜をつかハセ	七月上旬	信長公より信玄公へ、大きな 御音物（贈り物）あり。 際限なし。書くに及ばず。
-----------------	-----------------	-----	---------------------------	-----	---------------------------------------	------	--

『甲陽軍鑑』という本には、彼が信長公と面会して岐阜で歓待をうける様子が書かれています。

能を鑑賞した後鵜飼を見物したのですが、その船は信長公と同じように飾られていたそうです。この後、獲れた鮎を信長公が自ら選んで甲府へ届けさせたそうで、武田信玄とその使者を丁重にもてなしたことがよく分かりますネ。



長良川薪能



長良川の鵜飼

信長公のおもてなし レイス・フロイスの場合

フロイスの訪問日程

永禄十二（一五六九）年五月	一日目	岐阜到着後 待機
四日目	信長が宮殿建築を見に行く途中で会う	↓宮殿見学
七日目	信長に別離の挨拶	↓茶の湯の室と所蔵品見学 ↓踊り、歌、オヤツの接待
八日目	山上に到着	↓明日、城を見せたい
		↓茶を与える↓平野を展望
		↓談話（二時間半〜三時間）
		↓晚餐（※信長自ら食膳を運ぶ）
		↓城の全部を見せるよう命じる↓下山

ワタシは10日足らずの間岐阜に滞在しましたが、信長公はもちろん、家臣の皆さんにも大変手厚くもてなしていただきました。特に柴田勝家殿は、食事をするまで返してくれなかったほどのです。

山上からの景色は一見の価値アリですね。話をした後、食事をいただいたのですが、思いがけず信長公自らの手で食膳を運んでいただき大変感激しました。



山上からは美濃と尾張の平野を見ることができました。



現在の岐阜城天守閣

山麓の屋敷はいたるところ水が流れ、全体が庭のようですばらしかったです。



山麓の滝

信長公のおもてなし 山科言継の場合

山科言継は京都の公家です。彼は天皇家の法要費用を調達するため三河の家康の下にへ向かう途中、岐阜を訪れました。

山科言継の訪問日程

永禄十二（一五六九）年七月	七月十日	城へ上留守	七月十一日	明日麓之宅にて見参	七月十二日	路地で会う	↓麓之屋敷で対面、	↓土産を渡す	七月十九日	山之城一覽之望	八月一日	未刻（午後二時ごろ）	山城に向かう	↓坂七曲越	↓微音音曲共囃	↓晚餐（※信長が給仕）	↓上の権現其外、城中の方々同道して見せた	↓嶮難の風景、	言語に説くべからず。
---------------	------	-------	-------	-----------	-------	-------	-----------	--------	-------	---------	------	------------	--------	-------	---------	-------------	----------------------	---------	------------

言継さんは、私の直後に岐阜を訪れていマス。山麓の屋敷で面会していますが、山上の城も見たいとお願いしていたようで、後日、山上での晚餐会に招かれました。

山頂から見た風景を彼は言葉で説明できないと言っています。ワタシも見ましたよ、山頂からの風景。

濃尾平野が一望できるすばらしい眺めは今もそんなに変わりませんネ。



天守閣から西方を望む

つ　だ　そうぎゅう
信長公のおもてなし 津田宗及の場合

津田宗及は堺の茶人・商人です。彼は信長公が持っている茶道具を見せてもらうために岐阜にやってきました。

津田宗及の訪問日程

天正二（一五七四）年

一月二十四日 堺を出発

一月二十八日 岐阜到着

一月二十九日 信長に参上の報告

二月 一日 まだ見ていない道具
を書くようにいわれる

二月三日 茶室で名物道具拝見
↓茶を点てる、食事

※織田信澄（信長の甥）・
織田信雄（信長の次男）が給仕。

おかわりは信長自ら下される。

信長公は自慢の茶道具を見せた後、茶会を開いて宗及さんをもてなしまシタ。

食事のときに自ら接待しているのは、ワタシの時と同じです。信長流のおもてなしなのでしょうネ。

料理は日本海側から運んだ食材も使った豪華版です。ちなみにデザートの手柿は美濃の特産品ですネ。この料理は接待用で、信長公自身は普段は食を節していたようです。



信長料理復元模型(岐阜市歷史博物館藏)

織田信長公居館の発掘調査

岐阜公園では信長公の屋敷の全体像を調べるために、発掘調査が行われています。

何段かある平坦な場所には4階建てともいわれる宮殿をはじめ建物や庭がありました。どうやらこの段々の地形は信長公の義父の斎藤道三公のころに造られたらしいデスヨ。

発掘調査はほとんどされていませんが、一番西側の平地部分にも建物があったようです。こうしてみると、岐阜公園全部に信長公の屋敷があったといえますネ。



©岐阜市2006

これまでの発掘調査成果

⑤岐阜公園最大の巨石列



④州浜状の遺構、庭園か？



⑥石垣と水路に囲まれた場所（BII区）



⑥火災にあった建物跡（BI区）



③石垣と通路



②石敷きとカマド



平坦地と石垣（D地区）



③戦国時代の井戸



①石組み水路と石垣、階段跡



①通路と巨石列（1次調査）



信長公居館跡の地形復元図

発掘調査① 巨石通路の発見

調査の結果、背丈ほどある巨大な石が両側に立て並べられた通路が見つかりました。まさに裁断されない石の壁です。

居館では石垣も見つかっていますが、このような巨石列は他の城ではほとんど見ることはできません。何を思って信長公はこの巨石列を造らせたのでしょうか？もしかしたら試行錯誤しながら新しい城の姿を模索していたのかもしれません。

いずれにせよ、居館の入口を象徴するものなのでしょうネ。



調査の位置



巨石を並べた通路



巨石を横から見たところ



石垣と水路



見つかった焼物

1600年の岐阜城廃城時に捨てられたものです。

発掘調査② 戦国時代のお風呂？

加藤栄三・東一記念美術館建設時の発掘調査で見つかりマシタ。

石敷きは庭園の州浜みたいなものとよく似ていますネ。そのそばでは石組みのカマドも見つかっています。

カマドは煮炊きに使うとされていたのですが、よくよく考えると庭のそばに台所があるのも変な話ですね。もしかしたら、湯殿（蒸し風呂みたいなもの）のお湯を沸かしていたのでは・・・？そう考えると、ここは信長公のお風呂場だったのかも知れません。

ちなみにカマドは現在、美術館内で展示されていますヨ。



調査の位置



石敷きとカマド



円礫の石敷きと水路



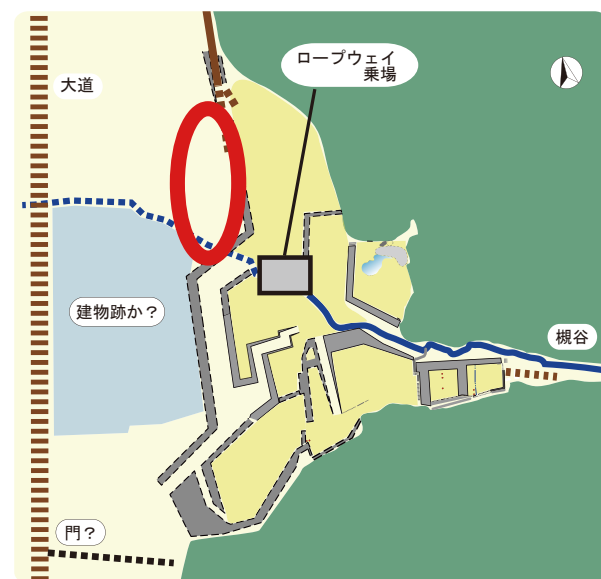
2基のカマド

発掘調査③ 美濃攻略の爪あと

1997年、岐阜公園の山すそに庭が造られることになり、調査が行われました。

ここでは信長の稲葉山城攻略時（1567年）の火災により変色したとみられる多量の陶磁器がみつかっています。実際に使っていたのは攻め込まれた側の斎藤氏ということになるんでしょうね。他の場所でも火災の痕跡が確認されています。

また、打刀も見つかりました。儀式に使ったのか、意図的に埋めたようです。他にも石垣や階段、井戸などが確認されました。石組井戸は一部を現地に復元していますヨ。



調査の位置



石組みの井戸



中国製の高級食器



打刀の出土状態



瀬戸美濃産の食器

発掘調査④ 信長公の庭園発見!?

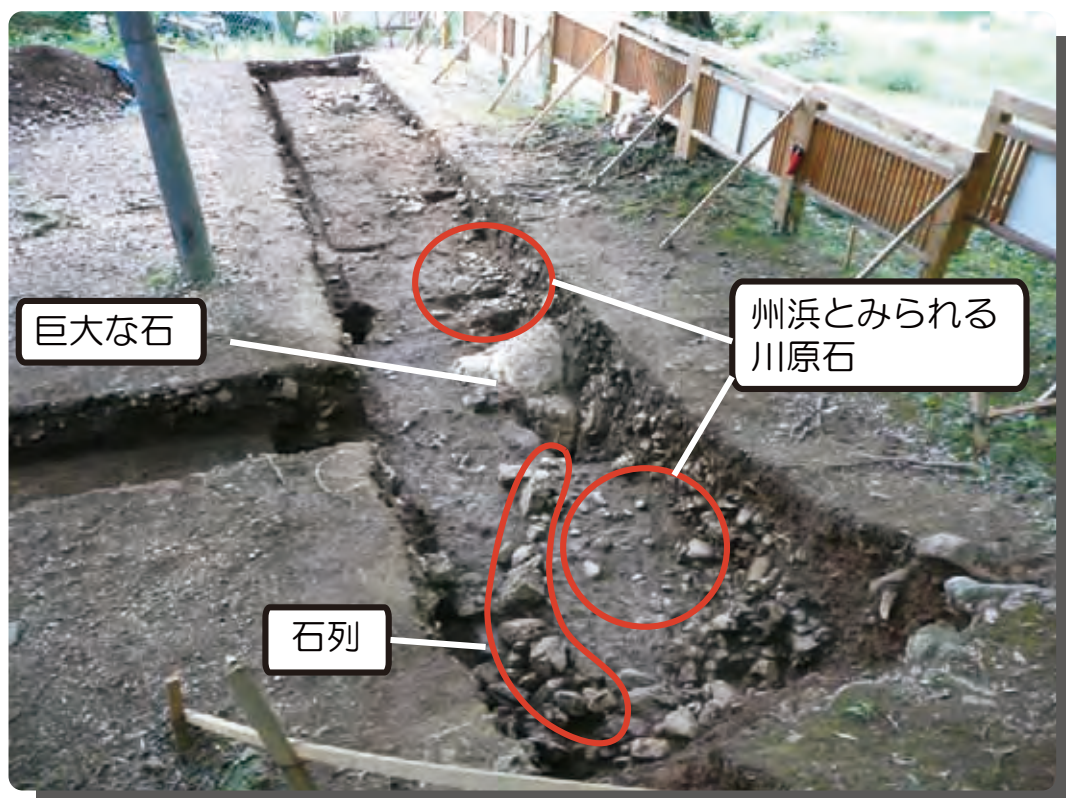
平成19年度からの調査では、川原石を粘土に敷き詰めた跡が見つかりました。池のふちに石を貼る「州浜（すはま）」というものによく似ているそうです。

巨石も池の奥に立てられていたのでしょうか？後ろに迫る岩盤と合わせて見ると、すごい迫力の庭があったんでしょうねえ。

どこかに庭を眺める建物があったと思いますので、今後も調べてもらおうと考えています。



調査の位置



見つかった石敷き遺構



華南三彩（かなんさんさい）
中国南部で作られた色鮮やかな器です。



倒れた巨石



現代の州浜
見つかった遺構はこのような池の縁だったと考えられます。

発掘調査⑤ 謎の中心建物

この場所は「千畳敷」と呼ばれる場所で、歴代城主の館があったと伝えられる場所です。岐阜公園で最も大きい巨石は圧巻です。山際には川原石の石敷きも見つかっており、ここにも枯山水のような庭園があったのかもしれませんが。ここは周囲の岩盤と一体で「見せる」空間だったのではないのでしょうか。

周辺ではこの場所の建物に使われた部材等が見つかってイマス。壁土や炭化した柱の他、金箔を貼った瓦が出ましたヨ！

ゴージャスな建物だったんでしょねえ。



調査の位置



岐阜公園最大の巨石列



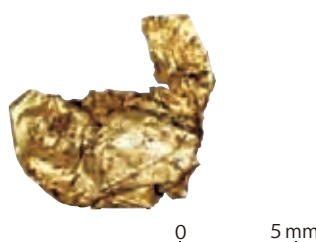
石敷き遺構 枯山水庭園？



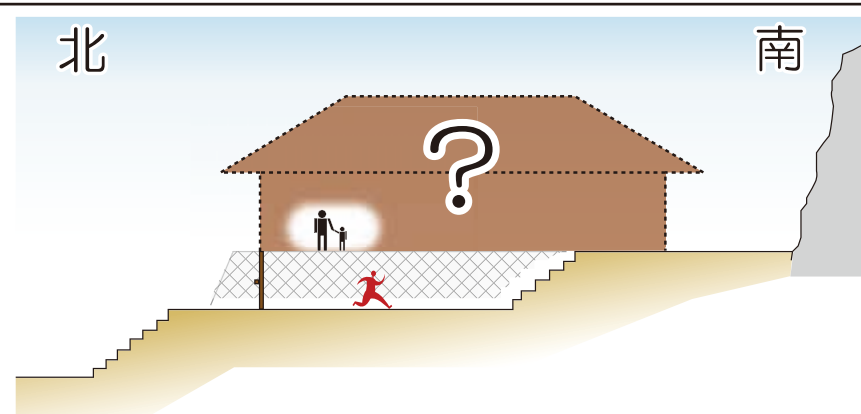
階段跡



金箔を貼った瓦片



金箔片



建物の入口は地下式？

ここの建物は、図のような構造だったようです。そういえばワタシの記録には階段を登ると広間に入るといふ部分がありますが、少し気になる表現ですネ。もしかしたら、建物は地下から入ったのかも・・・

発掘調査⑥ 信長公の奥座敷

この場所は槻谷（けやきだに）と呼ばれる谷の中で、信長公の居館でも最も奥に位置します。2つの平坦地（BⅠ・Ⅱ区）には建物があつたと考えられ、その奥（BⅢ区）では庭園跡が見つかりまシタ。

BⅠ区では礎石とともに大量の焼けた壁土が確認されています。分厚い壁の立派な建物があつたのでしょうか。

ワタシが見た2階以上の場所というのはこのことだったかも知れません。そうすると茶室はBⅡ区にあつたかも知れませんネ。



調査の位置



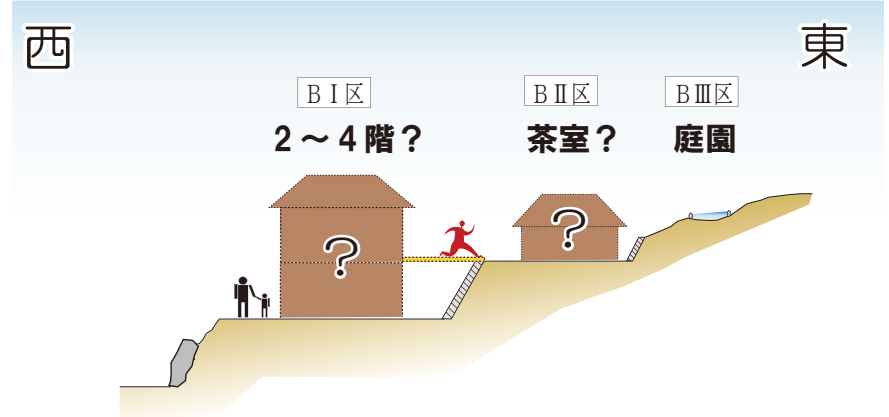
BⅠ区 礎石と焼けた壁土の層



BⅡ区 平坦地を囲む石垣



BⅢ区 水溜めと池



茶室へ渡る空中廊下？

この段々地形の場所にはワタシがみた2階以上の部分があつたと思います。もしかしたら図のような造りだったのかも・・・こんな建物があつたら、眺めもいいでしょうねえ。

—まとめ— 天下人の迎賓館

山麓の発掘調査では、庭園のような跡がいくつも見つかりました。庭園だけでなく巨石や石垣、自然地形の岩盤も含めて、「見せる」ことを意識した造りになっており、まるで”軍事”の意識が感じられませんネ。

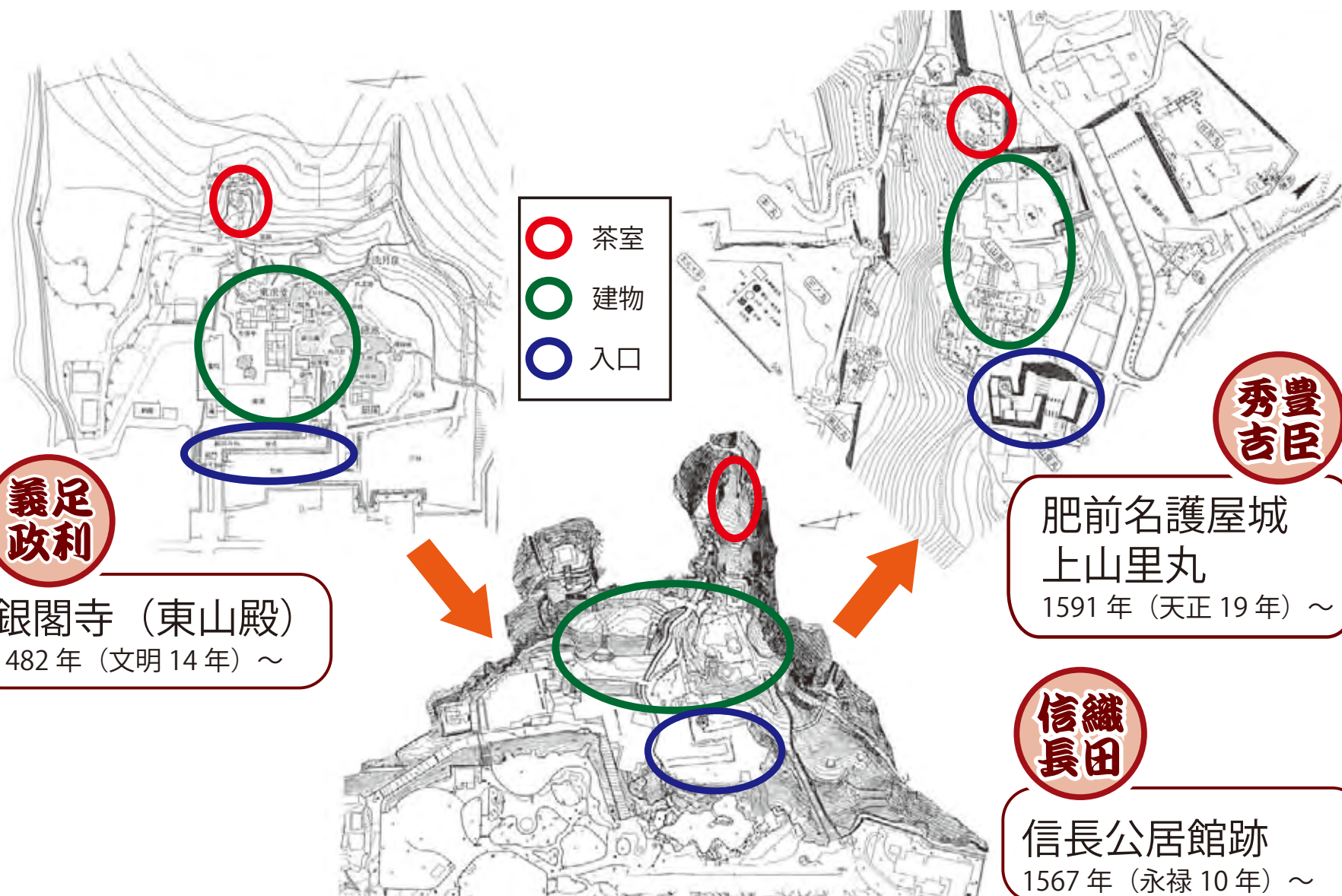
全体が庭園でその中に建物が点在するような構造は、まるで中国の山水画のようです。信長公居館とはプライベートな邸宅でもあり、眺めを楽しみながら特別な客人をもてなすような迎賓館でもあったのかも知れませんネ。



© 岐阜市2006



地形復元模型

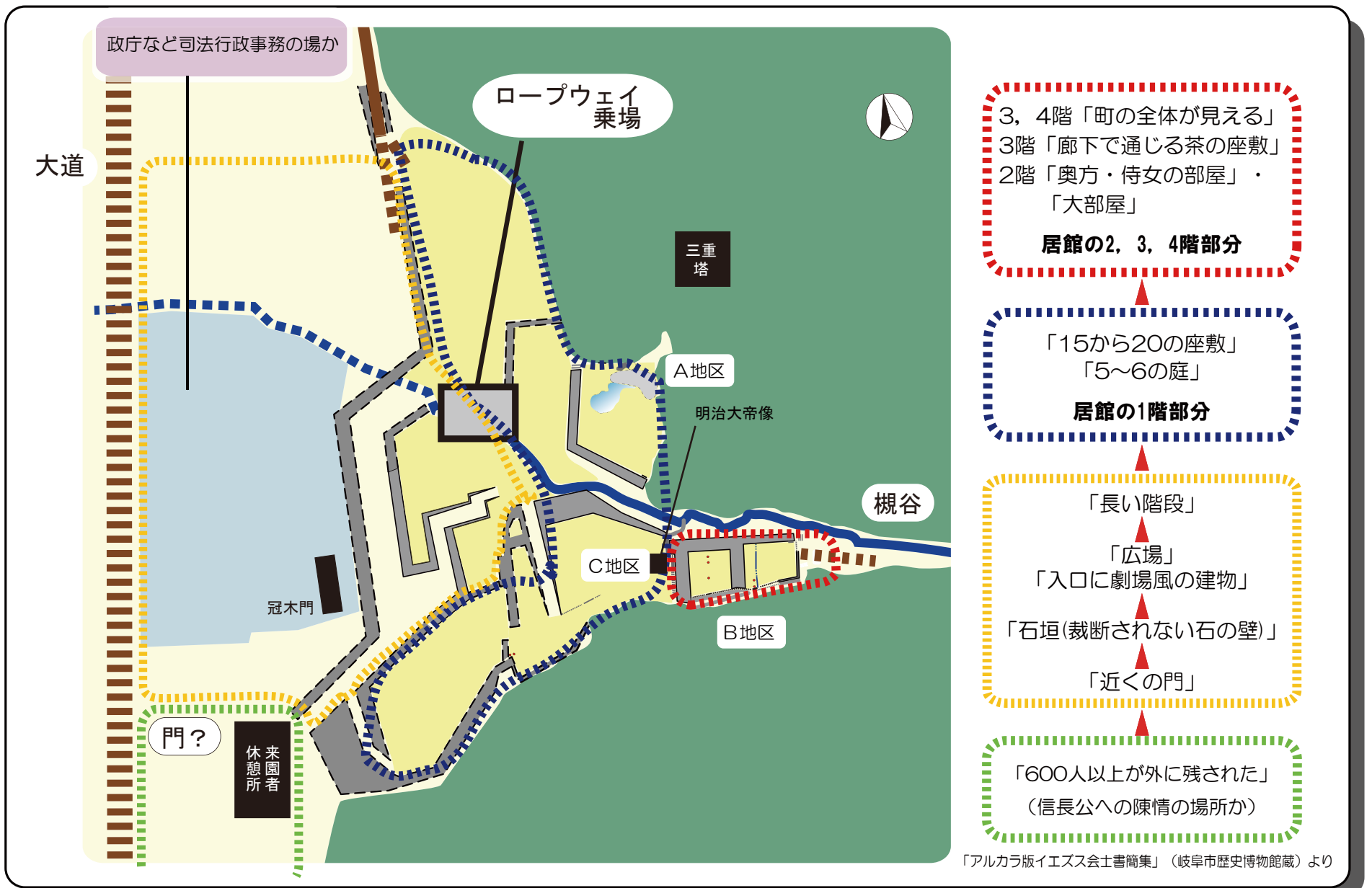
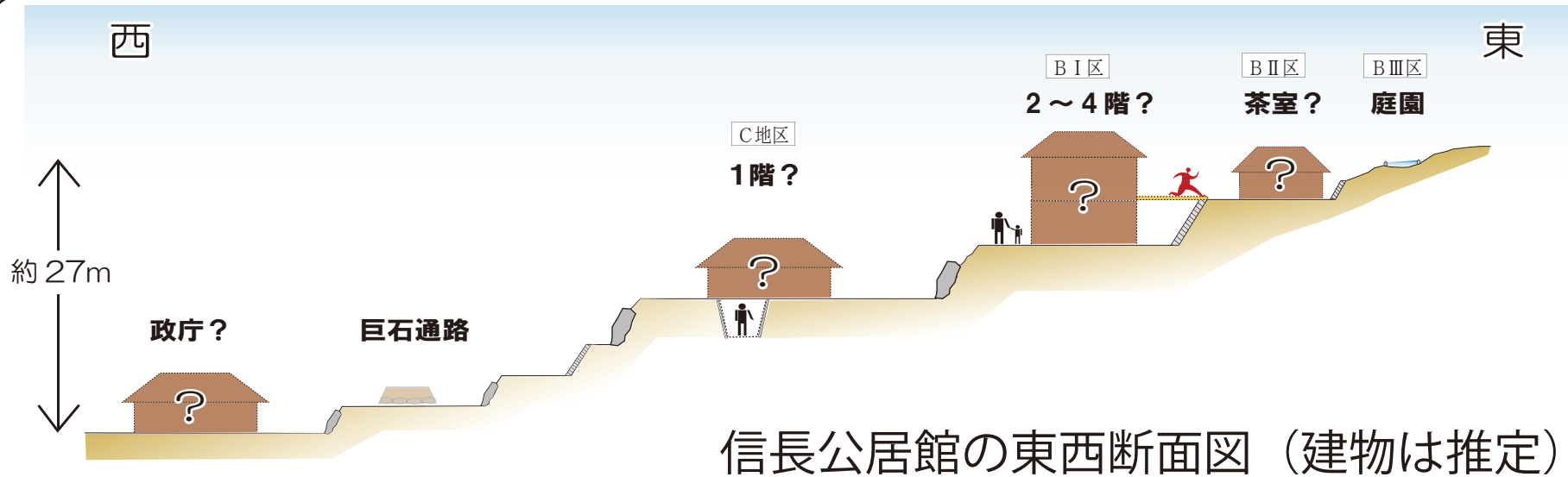


天下人の屋敷の系譜

まとめ① 信長公居館の構造

調査成果を考えると、どうやら信長公の居館は単純な四階建てではなかったようです。現時点ではワタシの記録にある居館一階部分は複数の平坦地にあった建物群で、二階以上の部分が谷の奥（B地区）にあったと考えるのが良いのではないのでしょうか？

さらに大胆に考えると、BⅠ区に二～四階に相当する建物があり、その三階相当部分からBⅡ区の茶室向かう廊下が架かっていたとも推定できますが、考えすぎでしょうか。



発掘成果とフロイスの記述から考えられる信長公居館の構造案

まとめ② 室町将軍庭園の系譜

みつかった庭園群は信長のもてなしの場だったのでしょ
うネ。自然地形と一体となったその眺めはスケールが
大きく、他とは比較にならないデス。

ところで一番奥で見つかったの池の構造や立地は、将
軍足利義政の別荘「東山殿（ひがしやまどの）」（銀閣で
知られる現在の慈照寺）や西芳寺と似ていますよ。室町
将軍邸の庭を真似たのでしょうか。革新的なイメージが
強い信長公ですが、将軍家の伝統や権威を継承しようと
した一面があったということかも知れませんネ。



縁の外側には **5～6の美しい庭**があるが、すべてが
きわめて丁寧で新しく、何か雪のように白いもので作
られていて、小さな空間をなしている。これらの庭の
あるものには **1パルモの高さ**まで水が溜められてお
り、その下には庭石と**雪白の砂**が敷かれていて、沢山
の種類魚が泳ぎまわっていた。また、池の中央の表
情豊かな石の上には、各種の香り高い草花が生えてい
た。その山からは水がやさしく豊富に流れ落ちていた
が、それはいくつかの広間に**管で排水**されており、美
しい水口となって、他の場所でも家事に使用するため
すべて思い通りにできるようになっている。



地形復元模型

参考文献 『アルカラ版イエズス会士書簡集』 岐阜歴史博物館蔵



B III区の池

池は石組みで護岸され、池底には白砂と川原石が敷かれていました。

砂は長良川のものですが、わざわざ白い砂を選んで敷いたようです。ワタシの記録にもそんな記述がありましたネ。